

LMO-AK V02A

INTERNAL ATAPI(E-IDE) MO UNIT

MOユニット・ ユーザーズマニュアル

LMO-DxxAK3シリーズ



Logitec

目次

取扱い上のご注意	1
ごあいさつ	3
ご注意	3
付属品の確認	4
第 1 章 製品のご紹介	5
1 . 1 製品の概要	5
1 . 2 各部の名称	8
第 2 章 接続について	10
2 . 1 接続の前に	10
2 . 2 接続の手順	13
3 . 1 使用可能な状態になるまで	16
第 3 章 接続後の作業	16
3 . 2 ソフトウェアのインストール	17
3 . 3 メディアのセット / 取り出しについて	20
第 4 章 補足事項	23
4 . 1 トラブルシューティング	23
4 . 2 保守とその他	26
4 . 3 メディアID について	27
ハードウェア仕様	28

取扱い上のご注意

本製品を正しく安全に使用するために

- ・本書では製品を正しく安全に使用するための重要な注意事項を説明しています。必ずご使用前にこの注意事項を読み、記載事項にしたがって正しくご使用ください。
- ・本書は読み終わった後も、必ずいつでも見られる場所に保管しておいてください。

表示について

- ・この「取扱い上のご注意」では以下のような表示(マークなど)を使用して、注意事項を説明しています。内容をよく理解してから、本文をお読みください。



警告

この表示を無視して取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う危険性がある項目です。



注意

この表示を無視して取扱いを誤った場合、使用者が障害を負う危険性、もしくは物的損害を負う危険性がある項目です。



三角のマークは何かの注意しなければならないことを意味します。三角の中には注意する項目が絵などで表示されます。例えば、左図のマークは感電に注意しなければならないことを意味します。



丸に斜線のマークは何かを禁止することを意味します。丸の中には禁止する項目が絵などで表示されます。例えば、左図のマークは分解を禁止することを意味します。



塗りつぶしの丸のマークは何かの行為を行わなければならないことを意味します。丸の中には行わなければならない行為が絵などで表示されます。例えば、左図のマークは電源コードをコンセントから抜かななければならないことを意味します。

警告

接続時には電源コードを抜いてください。

本製品をパソコン本体に接続するときには、パソコン本体の電源をOFFにして、電源コードをコンセントから抜いてください。



分解 / 改造しないでください。

本製品は絶対に分解しないでください。内部にはレーザー光を使用している部分があります。レーザー光を直視すると視覚に重大な傷害を与えます。



注意

接続時、感電 / 火傷等に注意してください。

- ・パソコン本体内部には感電の危険性がある部分があります。感電には十分注意してください。
- ・電源OFF直後のパソコン本体内部には、高温の部分（CPUなど）があります。火傷しないように注意してください。
- ・パソコン本体内部の金属部分や基板の裏側に、不注意に触れるとケガをすることがありますので注意してください。



感電注意



高温注意



ケガに注意

内部に異物を入れないでください。

本製品内部に水などの液体や金属片を入れると、故障、感電、火災の原因となります。



その他の
禁止事項

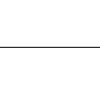
静電対策をしてください。

本製品およびパソコン本体には、静電気に弱い部品が使用されています。静電気のためやすいカーペットの上などに置かないでください。

また、接続の前にパソコン本体の金属が露出している部分にふれて、体内の静電気を放電してから作業を行ってください。接続時、不要な部分には手を触れないでください。



その他の
強制事項



ごあいさつ

この度は弊社製品をお買い上げいただきまして、誠に有り難うございました。本書は製品に関する設定 / 接続方法、機能 / 仕様等についてのご説明をいたしますので、ご使用前に必ずご一読いただきますようお願いいたします。

弊社製品によって、お客様のパソコン環境がより便利なものとなりますよう心からお祈りいたします。

ご注意

本書の一部または全部を弊社に無断で転載することは禁止されております。

本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審の点がございましたら、弊社テクニカルサポートまでご連絡くださいますようお願いいたします。

本製品および本書を運用した結果による損失、利益の逸失の請求等につきましては、一 項に関わらず弊社ではいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

本書に記載されている機種名、ソフトウェアのバージョンなどは、本書を作成した時点で確認されている情報です。本書作成後の最新情報については、弊社テクニカルサポートまでお問い合わせください。

本製品の仕様、デザイン及びマニュアルの内容については、製品改良などのために予告なく変更する場合があります。

本製品を使用して保存したデータが、ハードウェアの故障、誤動作、その他どのような理由によって破壊された場合でも、弊社での保証はいたしかねます。万一に備えて、重要なデータはあらかじめバックアップするようお願いいたします。

弊社は、本製品の仕様がお客様の特定の目的に適合することを保証するものではありません。

本製品は、人命に関わる設備や機器、および高い信頼性や安全性を必要とする設備や機器（医療関係、航空宇宙関係、輸送関係、原子力関係等）への組み込み等は考慮されていません。これらの設備や機器で本製品を使用したことにより人身事故や財産損害等が発生しても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。

本製品は日本国内仕様ですので、本製品を日本国外で使用された場合、弊社ではいかなる責任も負いかねます。また、弊社では海外での（海外に対してを含む）サービスおよび技術サポートを行っておりません。

付属品の確認

MOユニット	1台
イジェクトツール	1個
取り付けネジ	4個
「LogitechWare」 CD-ROM	1枚
保証書 / ユーザー登録カード	1枚
MOユニット・ユーザーズマニュアル	本書

本製品は精密電子機器です。輸送時には必ず付属の梱包材をご使用
ください。

*MS[®]、Windows[®]は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国での登録商標です。本書に
記載されているパソコンの機種名等は各社の商標または登録商標です。

第 1 章 製品のご紹介

1 . 1 製品の概要

本製品は各社の DOS/V パソコン、および日本電気株式会社の PC98-NX シリーズに内蔵可能な 3.5 型 MO ユニットです。

1

本製品の特徴

パソコン本体のベイに内蔵するタイプですので設置に場所を取りません。

世界標準の ISO 規格に準拠する MO メディアを使用できます。(使用可能な MO メディアの容量やタイプについては 7 ページの「使用可能な MO メディア」をご参照ください。) MO メディアの判別は自動判別で行われます。

LMO-D2300AK3 は 2.3GB MO メディア (GIGAMO 2.3GB 規格) 1.3GB MO メディア (GIGAMO 1.3GB 規格) に対応しています。

LMO-D1354AK3 は、1.3GB MO メディア (GIGAMO 1.3GB 規格) に対応しています。

ノーマルタイプの MO メディアの他に、オーバーライトタイプの MO メディアを使用することもできます。このタイプの専用 MO メディアを使用すると、旧データの消去と新データの書き込みを 1 回転で行うことができるため、高速な書き込みが可能です。

高速タイプのドライブとドライブ内部のキャッシュメモリにより、高速なアクセスを可能にしています。(平均シークタイム、ディスク回転数、キャッシュメモリの容量などについては、巻末の「ハードウェア仕様」をご参照ください。)

耐塵設計のドライブを使用していますので、防塵フィルタは必要ありません。(ただしディスクのクリーニングは必要です。)

接続可能なパソコン

本製品は各社のDOS/Vパソコン、日本電気株式会社のPC98-NXシリーズのうち、以下の条件を満たす機種で使用することができます。

5インチベイ（もしくは3.5インチベイ）に空きがあること。

ATAPI (E-IDE) インターフェースを標準搭載していること。

パソコン本体の機種によっては、取付け金具などが必要な場合もあります。詳細についてはパソコン本体の取扱説明書をご参照ください。



ご注意

- ・ 発売されているすべての機種で接続確認を行うことは不可能です。一部に対応できない機種が存在する可能性があることは、あらかじめご通知おきください。
- ・ 本製品を接続するインターフェースは「ATAPI (E-IDE)」である必要があります。旧タイプの「IDE」インターフェースには接続できません。
- ・ 一部のパソコンでは、本製品のようなATAPI (E-IDE) MOユニットをシステムで1台に制限している場合があります。このようなパソコンでは、ATAPI (E-IDE) MOユニットを2台以上同時に接続することはできません。

使用可能な OS

本製品は以下のOSで使用することができます。（いずれも日本語バージョンに限ります。また、パソコン本体がサポートしていないOSでは使用することができません。）

マイクロソフト株式会社	Windows XP Home Edition/Professional
	Windows Me
	Windows 2000
	Windows 98 (SecondEdition 含む)
	Windows 95
	Windows NT 4.0 (Service Pack3 以降)



ご注意

本製品を Windows95 で使用している場合、ATAPI (E-IDE) インターフェイス用のドライバのバージョンが古いと正常に動作しない場合があります。詳細については第 3 章をご参照ください。

使用可能な MO メディア

本製品で使用可能な MO メディアは以下の通りです。

		LMO - D2300AK3	LMO - D1354AK3	LMO - D654AK3
128MB	標準			
	OW			
230MB	標準			
	OW			
540MB	標準			
	OW			
640MB	標準			
	OW			
1.3GB	標準			×
	OW			
2.3GB	標準		×	×
	OW			

標準 = ノーマルタイプ

OW = オーバーライトタイプ

= 使用可能

× = 使用不可

- = 現在このタイプは市販されていません



ご注意

本製品では 128MB の MO メディアへの書き込みが可能ですが、これを行った 128MB の MO メディアを、他の MO ユニットで読み込めるかどうかは、保証の範囲外とさせていただきます。(本製品と同じ MO ユニットでの読み込みは可能です。)

これは 128MB の MO ユニットには、初期のドライブを使用した製品があり、レーザー光の強度が最新のドライブと異なる可能性があるためです。他の MO ユニットとのデータ交換は、230MB 以上の MO メディアをご使用ください。

1 . 2 各部の名称

本製品前面

メディア挿入口

MOメディアをセットする部分です。セット方法は「3.3 メディアのセット/取り出しについて」をご参照ください。

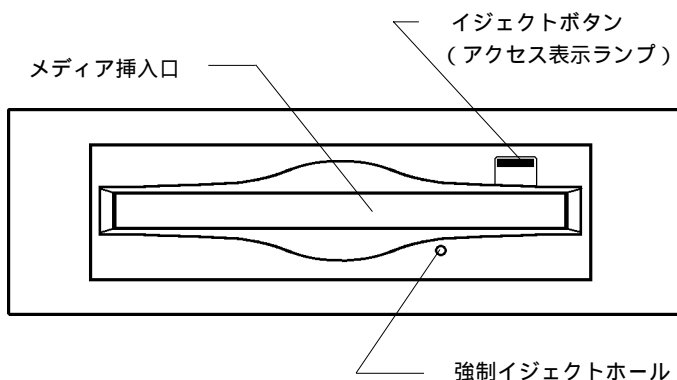
イジェクトボタン (アクセス表示ランプ)

Windows が起動していない状態でMOメディアを取り出したいときに使用します。Windows が起動している状態での取り出し方法については「3.3 メディアのセット/取り出しについて」をご参照ください。

また、このボタンはアクセスを表示する機能もあります。MOメディアに対して読み書きが行われているときに点灯します。

強制イジェクトホール

何かの原因でMOメディアが排出されなくなった場合に使用します。詳細は「3.3 メディアのセット/取り出しについて」をご参照ください。



本製品背面

電源コネクタ

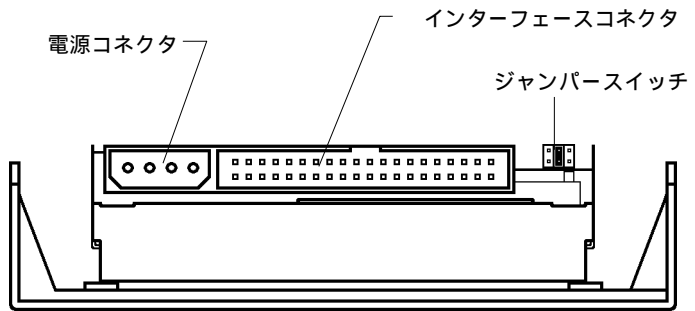
パソコン本体の内部電源ケーブルを接続します。

インターフェースコネクタ

フラットケーブルでパソコン本体の ATAPI (E-IDE) コネクタと接続します。

ジャンパースイッチ

本製品の動作モードをマスタ/スレーブに設定します。設定方法については、第 2 章をご参照ください。



第2章 接続について

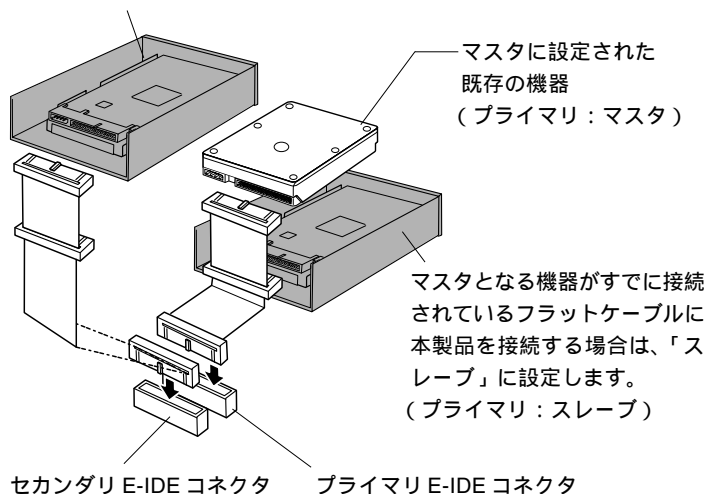
2.1 接続の前に

動作モードの設定

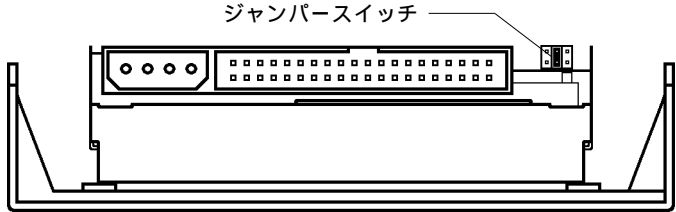
本製品を接続する前に、本製品の動作モード(マスタ/スレーブ/ケーブルセレクト)を設定してください。




本製品のような ATAPI (E-IDE) 対応機器は、1つの ATAPI (E-IDE) コネクタに2台まで接続できますが、その場合、片方をマスタに設定し、もう片方をスレーブに設定しなければなりません。ATAPI (E-IDE) コネクタが2つ(プライマリ/セカンダリ)ある場合はマスタ/スレーブの組み合わせを2組、合計4台までの機器を接続できます。(下図参照)

フラットケーブルに本製品のみを接続する場合は、「マスタ」に設定します。
(セカンダリ：マスタ)



本製品の場合、動作モードの設定は以下のように背面のジャンプスイッチで行います。



マスタ 	本製品のみを接続する場合、もしくは、2台接続でマスタとして使用する場合
スレーブ 	2台接続でスレーブとして使用する場合 (出荷時設定)
ケーブルセレクト 	ケーブルセレクトで使用する場合 (参考)



ジャンププラグ
取り付ける位置



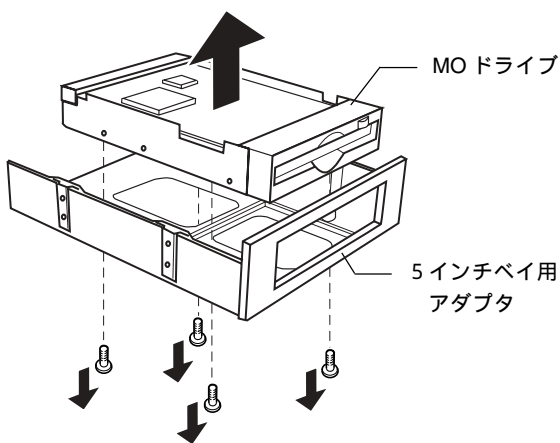
ご注意

- ・「ケーブルセレクト」は一部のパソコンのみで使用される特殊な設定です。パソコン本体の取扱説明書で、ATAPI (E-IDE) 機器をケーブルセレクトに設定する指示がある場合のみ、この設定を使用してください。(この設定を使用する場合は専用ケーブルが必要です。)
- ・1本のフラットケーブルに2台のATAPI (E-IDE) 機器を接続する場合、一般的に高速な機器 (ハードディスク) を「マスタ」に、低速な機器 (MO ユニット、CD-ROM ユニット) を「スレーブ」に設定すると動作が安定します。

3.5 インチベイに接続する場合は・・・

本製品は、5 インチベイ用のアダプタが取り付けられた状態で出荷されています。そのため、本製品を3.5 インチベイに接続したい場合は5 インチベイ用のアダプタを外す必要があります。

5 インチベイ用のアダプタを外したい場合は、下図のように底面のネジ4本を取り外して、MOドライブを上を持ち上げてください。



⚠️ ご注意

- ・ 本製品を5 インチベイに接続する場合、この作業は必要ありません。
- ・ 3.5インチベイはパソコン本体の機種によって形状や取り扱いがまったく異なります。そのため、本製品を3.5インチベイに接続する場合は、パソコン本体の取扱説明書にしたがって作業を行ってください。

2.2 接続の手順

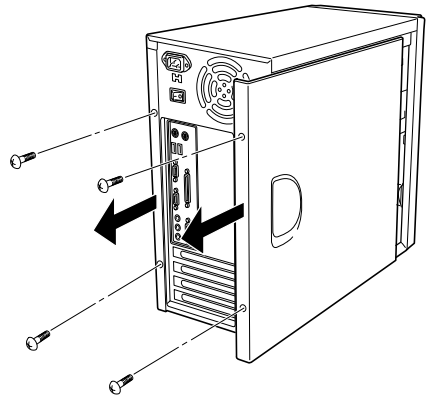
ここでは本製品をパソコン本体の5インチベイに内蔵する手順を概略的に説明します。詳細についてはパソコン本体の取扱説明書をご参照ください。また、パソコン本体によって取り付けに特殊な金具が必要な機種もありますので、あらかじめ、パソコン本体の取扱説明書で確認してご用意ください。



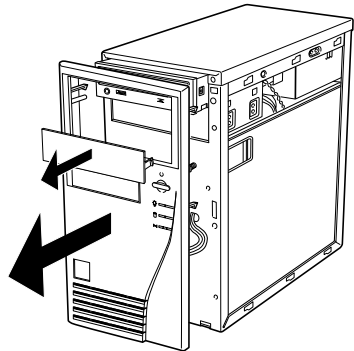
重要なお注意

接続の前に必ず本製品、パソコン本体、およびそこに接続されたすべての周辺機器の電源をOFFにして、パソコン本体の電源コードをコンセントから外してください。接続時に内部ショートが発生すると電源がONになる場合があります。感電や火災を防止するため、必ず電源コードをコンセントから外してください。

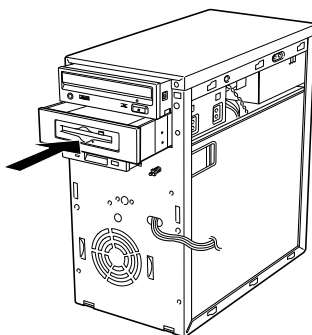
パソコン本体のカバーを取り外します。(右のイラストは一例です。取り外し方法についてはパソコン本体の取扱説明書をご参照ください。)



フロントパネルを外し、そこに取り付けられた5インチベイのカバーを取り外してください。

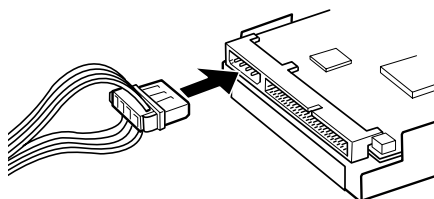


本製品を5インチベイに挿入します。完全に挿入してしまうと、次の作業(~)がやりにくくなりますので、半分くらい挿入した状態で次の作業を行ってください。(まだ、この段階ではネジ止めしません。)

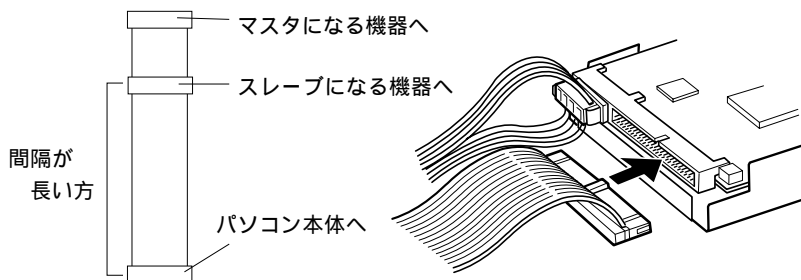


2

パソコン本体の内部電源ケーブルを本製品の電源コネクタに接続します。このコネクタは正しい方向でしか接続できない形状になっています。



パソコン本体内部のATAPI(E-IDE)コネクタと、本製品のインターフェースコネクタを、フラットケーブルで接続します。フラットケーブルはパソコン本体にあらかじめ取り付けられたものか、市販のものをご使用ください。



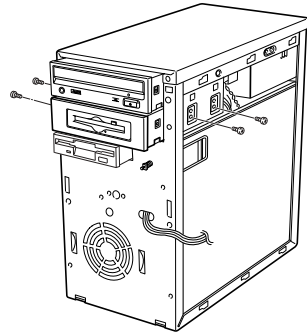
フラットケーブルの使い方

弊社では以下の型番でフラットケーブルを販売しております。

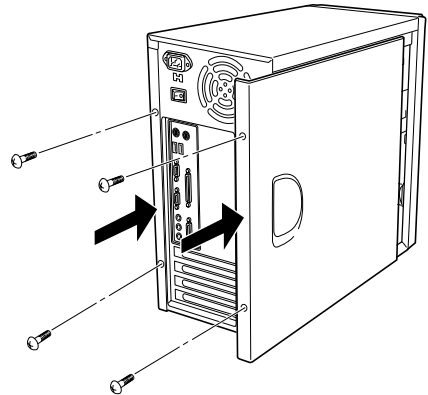
型番	仕様	長さ
CB-F40/66	Ultra ATA 66/100/133 対応	0.4m
CB-F40(*1)	Ultra ATA	0.4m

*1 Ultra ATA/66 以上の高速転送環境では使用できません。

本製品を完全に挿入して、付属のネジで固定します。ネジ止めの方法はパソコン本体によって異なりますが、多くの場合、横から止めます。



ケーブルなどを挟み込まないように注意して、パソコン本体のフロントパネルとカバーを取り付け、ネジで固定します。



以上で接続は終了です。

第3章

接続後の作業

3.1 使用可能な状態になるまで

接続が完了したら、パソコン本体の電源をONにして、Windowsのシステムを起動してください。

SCSIインターフェースボードを新規接続した場合は、Windowsのシステム起動が完了する前に、プラグ&プレイでSCSIインターフェースボードが認識され、ドライバのインストール作業に入ります。SCSIインターフェースボードのマニュアルにしたがってインストール作業を行ってください。

Windowsのシステム起動が完了したら、「マイコンピュータ」をダブルクリックして開いてください。すべての作業に問題がなければ、本製品がリムーバブルディスクとして認識され、したの図のように新しいリムーバブルディスクのアイコンが登録されているはずです。

もし、本製品がリムーバブルディスクとして認識されていない場合は、第4章の「4.1 トラブルシューティング」にしたがってチェックを行ってください。

Windows 98, Me, 2000 等では



本製品のアイコン
ドライブ名は異なる
可能性があります。

Windows XP では...

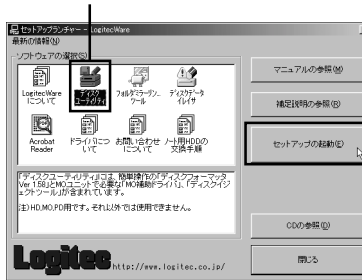


3.2 ソフトウェアのインストール

本製品には、MOメディアを使用する上で必要なソフトウェア（フォーマッタ等）が、「ディスクユーティリティ」として添付されています。

本製品付属の「LogitecWare」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットすると自動起動する「セットアップランチャー」から、「ディスクユーティリティ」をインストールしてください。（下図参照）

1. 「ディスクユーティリティ」のアイコンを1回クリックして、選択状態にします。



2. 「セットアップの起動」をクリックします。

3

Point

ポイント

Windows Me, 98/95をご使用の場合、ディスクユーティリティには「ディスクフォーマッタ」、「ディスクジェクトツール」、「MO補助ドライバ」が含まれています。これらのユーティリティは本製品を使用する上で必要ですので、必ずすべてインストールしてください。

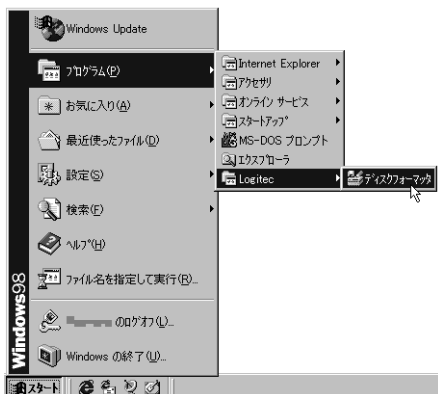


Windows XP, 2000, NT 4.0の場合、ディスクユーティリティは「MOメディアフォーマッタ」のみです。

MOメディアのフォーマットは

MOメディアのフォーマットは「ディスクユーティリティ」に含まれる「ディスクフォーマッタ」(Windows XP, 2000, NT 4.0の場合は「MOメディアフォーマッタ」)で行います。

ディスクユーティリティのインストールが終了したら、ディスクフォーマッタはタスクバー上の「スタート」ボタンをクリックして、「プログラム」「Logitech」とポイントし、「ディスクフォーマッタ」(もしくは「MOメディアフォーマッタ」)をクリックすることで起動できます。



また、Windows Me, 98/95 でインストール時にデスクトップ上にショートカットアイコンを作成した場合は、デスクトップ上の右のアイコンをダブルクリックしても起動することができます。



フォーマッタが起動したら、本製品のフォーマットを行います。フォーマットの手順については、ディスクフォーマッタのヘルプメニューから「トピックの検索」を選択し、表示されるヘルプウィンドウで「操作方法」「MOメディアのフォーマット」をご参照ください。



参考

Windows XP, 2000, NT 4.0 用の MO メディアフォーマッタにはヘルプはありません。必要に応じて、「LogitechWare」CD-ROM のオンラインマニュアルを参照してください。



ご注意

Windows95上で本製品を使用し、付属フォーマットでMOメディアのフォーマットを行う場合、ATAPI(E-IDE)インターフェースのドライバのバージョンが古いと、以下のような問題が発生する場合があります。

- ・MOメディアの物理フォーマットを行うとエラーが発生する。
- ・フォーマット上から本製品が認識されない。

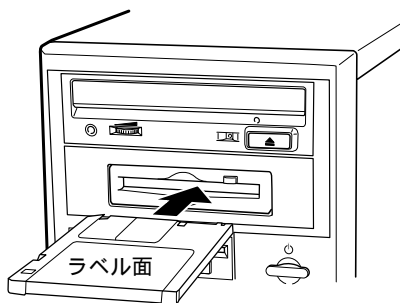
上記のような問題が発生した場合、パソコン本体のメーカー(もしくはマザーボードメーカー)に、最新のドライバの入手方法をお問い合わせください。

一部、旧タイプのパソコン本体では、ドライバのバージョンアップを行っても不具合が解消されない場合や、ドライバが供給できない場合もあります。このような場合にはWindows95標準の手順(MOメディアのアイコンを右クリックして、表示されるメニューから「フォーマット」を選択する)でフォーマットを行ってください。

3.3 メディアのセット / 取り出しについて

メディアをセットするには

本製品にMOメディアをセットする場合は、下図の方向でメディア挿入口に挿入してください。（間違った方向では挿入できません。）



ご注意

本製品にはMOメディア以外のメディアは挿入しないでください。フロッピーディスク等を無理に挿入すると機器を損傷します。

メディアを取り出すときは

Windows には遅延書き込み機能（*1）があるため、メディアを取り出すときは本製品前面のイジェクトボタンを使用するよりも、ソフトウェアによる取り出しを行ったほうが安全です。

取り出しの手順は使用するOSによって異なります。次ページをご参照ください。

*1 書き込みデータをメモリ上のキャッシュに蓄積することによって、見かけ上高速に書き込みを終了する機能。パフォーマンスは向上するが、書き込みデータがメモリ上に残った状態でMOメディアを取り出すと、データが失われる危険性がある。

Windows Me , 98/95 の場合

Windows Me , 98/95 上で MO メディアを取り出したい場合は、ディスクユーティリティインストール時にインストールされたイジェクトツールを使用します。タスクバーの右側のアイコンをクリックして、表示されるメニューから本製品のドライブ名を選択してください。



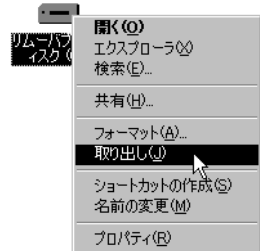
このアイコンをクリックします。

この操作を行うと、MOメディアが1cmほど排出されますので、静かに引き出してください。

Windows XP , 2000 , NT 4.0 の場合

Windows XP , 2000 , NT 4.0 上で MO メディアを取り出したい場合は、「マイコンピュータ」に登録された本製品のアイコン（リムーバブルディスク）を右クリックして、表示されるメニューから「取り出し」を選択してください。

この操作を行うと、MOメディアが1cmほど排出されますので、静かに引き出してください。



ご注意

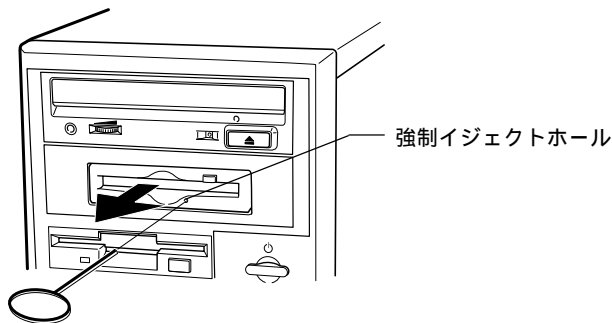
- Windows XP , 2000 , NT 4.0 で MO メディアを取り出すには、管理者権限を持つグループ（例えば Administrators グループ）のメンバーとしてログオンする必要があります。
- Windows NT 4.0 では、NTFS 形式でフォーマットされた MO メディアをシステムが起動している状態で取り出すことはできません。これを取り出したい場合は、システムを終了してからイジェクトボタンを押してください。

メディアが取り出せなくなった場合

何かの原因でメディアが取り出せなくなってしまった場合は、まず本製品のアクセス表示ランプが点灯していないかをチェックしてください。点灯していない場合には、一度システムを終了して、パソコン本体の電源を入れ直してみてください。

それでも状態が改善されない場合は、以下の手順でメディアを強制排出することができます。これを行なうときには、必ずパソコン本体の電源をOFFにしてください。

本製品付属のイジェクトツールを強制イジェクトホールに差し込んで押ししてください。



メディアが2～3 cmほど排出されますので、静かに引き出してください。



ご注意

電源がONの状態では、絶対に強制イジェクトを行わないでください。

第4章 補足事項

4.1 トラブルシューティング

本製品が認識されない。

- ・本製品の電源の状態と接続の状態をもう一度確認してください。
- ・ATAPI(E-IDE)インターフェースは正常に動作していますか？「デバイスマネージャ」を表示して、「ハードディスクコントローラ」に登録されている項目に「x」マークや「！」マークがついていないかどうか確認してください。

デバイスマネージャを表示するには、Windows Me, 98/95 の場合は、「コントロールパネル」「システム」を起動して、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

Windows 2000 の場合は、「コントロールパネル」「システム」「ハードウェア」タブを開いて、表示される「デバイスマネージャ」ボタンをクリックします。

Windows XP の場合は、「コントロールパネル」から「プリンタとその他のハードウェア」をクリックし、「関連項目」から「システム」を選び、システムウィンドウから「ハードウェア」タブをクリックし、表示される「デバイスマネージャ」ボタンをクリックしてください。

4

MOメディアのアクセス時にエラーが発生する。

- ・MOメディアは汚れていませんか？ ディスク・クリーニングを行ってみてください。
- ・MOメディアの不良も考えられます。別のディスクで試してください。これで問題がなければ、エラーが発生するMOメディアのデータをバックアップして、物理フォーマットからやり直してください。

MOメディアに書き込みができない。

- ・MOメディアのライトプロテクト・ノッチがプロテクト側に設定されていませんか？

特定のMOメディアをアクセスできない。

- ・そのMOメディアはフォーマットされていますか？ 一般にMOメディアは物理フォーマット済みで発売されていますが、物理フォーマットのみではアクセスはできません。本書で説明されている手順でフォーマットを行ってください。
- ・MOメディアではスーパーフロッピーフォーマットの形式が一般的ですが、ハードディスク形式やアップルコンピュータ社の Macintosh シリーズ用にフォーマットされたディスクもあります。異なるシステムとデータ交換を行う場合には、スーパーフロッピーフォーマットのMOメディアを使用してください。
- ・そのディスクが本製品で使用できるタイプかどうかを本書7ページの表で確認してください。

特定のソフトウェア（ディスク修復ツールなど）で
MOメディアを使用できない。

- ・一部のユーティリティソフトウェアでは、動作対象がハードディスクのみになっている場合があります。ソフトウェアメーカーに問い合わせ、そのソフトウェアがMOメディアを動作対象としているかどうかを確認してください。
- ・一部のソフトウェアでは、動作中のディスク交換の問題などからインストール対象をハードディスクに限定している場合があります。ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

MOメディアの取り出しができない。

- ・「3.3 メディアのセット/取り出しについて」をご参照ください。

Windows95でMOメディアの

物理フォーマット中にエラーが発生する。

- ・ATAPI (E-IDE) インターフェースのドライバのバージョンが古いとこのような問題が発生する場合があります。パソコン本体メーカー（もしくはマザーボードメーカー）に、最新のドライバの入手方法をお問い合わせください。

Windows95で本製品付属のフォーマッタから MOユニットが認識されない。

- ・ ATAPI (E-IDE) インターフェースのドライバのバージョンが古いとこのような問題が発生する場合があります。パソコン本体メーカー（もしくはマザーボードメーカー）に、最新のドライバの入手方法をお問い合わせください。

WindowsNT4.0で

物理フォーマット中にエラーが発生する。

- ・ WindowsNT4.0の「Service Pack 3」によるアップデートを行っていない場合、物理フォーマットを行うとエラーが発生します。アップデートを行うことによってこの問題を回避することはできませんが、WindowsNT4.0をプレインストールしたシステムではその他の問題が発生する場合がありますので、パソコン本体メーカーに「Service Pack 3」によるアップデートを行っても問題ないかどうかをお問い合わせください。

WindowsNT4.0でMOメディアをアクセスすると 「パラメータに誤りがあります。」のエラーが 表示される。

- ・ WindowsNT4.0以外のOSでMOメディアをフォーマットして、これをWindowsNT4.0上からアクセスしようとするとそのエラーが発生する場合があります。MOメディアをフォーマットした環境に戻って保存されたデータをバックアップしてから、本製品添付のフォーマッタでMOメディアを再フォーマットしてください。

その他：ソフトウェアの最新バージョン入手方法など

- ・ 弊社ではインターネット上にホームページを開設しています。ホームページにはソフトウェアのダウンロードコーナーもありますのでご利用ください。

ホームページアドレス：<http://www.logitec.co.jp/>

4 . 2 保守とその他

メディアのクリーニングについて

MOメディアは1～3ヶ月に1回程度、別売のメディアクリーニングキットを使用してクリーニングする必要があります。(使用環境/頻度によってクリーニングの時期は異なります。)クリーニングの方法については、クリーニングキットの取扱説明書をご参照ください。

本製品用のメディアクリーニングキットは、以下の型番で弊社より販売されております。

型番 : LMO-330-02

レンズ・ヘッドのクリーニングについて

空気中に浮遊するほこり、ちり、およびタバコの煙などが、本製品内部のレンズ・ヘッドに付着すると性能が低下することがあります。

本製品内部のレンズ・ヘッドは3ヶ月に1回程度、別売のレンズクリーニングキットを使用してクリーニングする必要があります。(使用環境/頻度によってクリーニングの時期は異なります。)クリーニングの方法については、クリーニングキットの使用法をご参照ください。

本製品用のレンズ・ヘッドクリーニングキットは、以下の型番で弊社より販売されております。

型番 : LMO-640-02



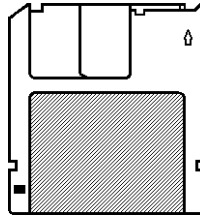
ご注意

- ・ レンズ・ヘッドクリーニングキットを使用する場合は、ACアダプタを接続し電源を供給する必要があります。
 - ・ レンズ・ヘッドクリーニングキットは必ず弊社販売の「LMO-640-02」をご使用ください。市販のものを無理に使用すると、機器を損傷する場合があります。
-

MOメディアのラベルについて

MOメディアにラベルを貼付する場合は、必ず指定の位置に1枚だけ貼ってください。また、貼った後ではがれないようにMOメディアの両面をしっかりと押さえてください。(最近のラベルには再剥離可能なように糊が弱いものもあります。そのようなラベルはできるだけ使用しないでください。)

不適切な位置に貼ったり、2枚貼りするとMOユニット内部でラベルがはがれて、MOメディアがイジェクトできなくなる恐れがあります。



裏面に回る部分がはがれやすいのでしっかりと押さえます。

斜線の部分からはみ出さないように貼ります。

4.3 メディアIDについて

本製品は「メディアID」機能に対応しています。以下のロゴマークはメディアID機能対応を示すものです。



メディアIDとは、メディアID対応のMOメディアに著作権保護の目的で記録された変更不可能な固有の番号です。今後ブロードバンドコンテンツ配信サービスなどで、メディアIDを前提とした著作権保護が施されたコンテンツの配信が予定されますが、このようなコンテンツを保存/再生するには、メディアIDに対応したMOメディアおよびMOドライブが必要です。詳細についてはインターネット上の弊社Webサイトをご参照ください。

本製品のメディアID機能を使用するためにはドライブが必要となります。メディアID対応ドライブは、付属のCD-ROM「LogitecWare」内に収録されています。また、最新バージョンについては、弊社Webサイトにて公開中です。

ハードウェア仕様

機種名	LMO - D2300AK3	LMO - D1354AK3	LMO - D654AK3
メディアタイプ *1	3.5型MOメディア ノーマルタイプおよび オーバーライトタイプ		
ディスクあたりの記憶容量	128MB / 230 MB 540MB / 640 MB 1.3GB / 2.3GB	128MB / 230 MB 540MB / 640 MB 1.3GB	128MB / 230 MB 540MB / 640 MB
平均シークタイム	19ms	23 ms	
ディスク回転数	5455rpm *2 3637 / 4138 / 4801 rpm 3637rpm	5455 rpm *3 3637 rpm	5455rpm
最大同期転送速度	33.3 MB / s *4		
キャッシュメモリ	8MB	2 MB	
インターフェース	ATAPI (E - IDE)		
環境条件 *5	動作時		パソコン本体に準じる
	保管時	温度	0 ~ 50
		相対湿度	10 % ~ 85 %
入力電圧	DC + 5V ± 5 %		
消費電力 (定格)	7.0 W	6.0 W	
外形寸法 幅 × 高さ × 奥行き	149 × 42.8 × 180 mm *6		
質量	600 g		

*1 対応メディアについては本書の 1 . 1 節参照。

*2 2.3GB MO メディア使用時は 3637rpm
1.3GB MO メディア使用時は 3637/4138/4801rpm
(書き込み位置により自動切換え)

*3 1.3GB MO メディア使用時は 3637rpm。

*4 理論値。

*5 ただし結露なきこと。

*6 突起部を除く。



<http://www.logitech.co.jp/>